

<平成27年度 体験記の部 優秀賞>

# ヒヤリハットの大切さ

(関東) (株)O運送 Y. M

あの日、私は急いでいました。会社に遅刻しそうだ、早く行かなきゃ、それだけの理由でした。その為、普段は通らない住宅街、その日私は初めて、通勤途中にそこに入り込みました。

いつも通っていた幹線道路は、通勤時間帯だと混んでいるので、住宅街を抜ければ早いはず、と安易な気持ちで通り、細い道を右折した瞬間、ものすごい衝撃音と共に、目の前が真っ白になり何も見えなくなりました。

何が起きたか理解できず、しばらく啞然としていましたが、目の前が真っ白になったのは、フロントガラスにヒビが入っていた為で、何かが当たったという事がわかりました。

うめき声が聞こえたので車から降りると、そこには大破した自転車、口から血を出して倒れている人がいて、そこで初めて、自分が交通事故を起こした事がわかりました。そこからは、救急車を呼んだり、警察を呼んだりし、結局、遅刻しない為に選んだ安易な抜け道のせいで、遅刻どころか仕事を休む事となり、会社にも迷惑をかける事になってしまいました。

警察の方が来て、実況検分をした際に、ぶつかるまで気づかなかった事を伝えると、「携帯電話などをいじっていましたか?」と聞かれました。

私はその時、携帯電話をいじってもいないし、わき見運転をしていた訳でもありませんでした。しかし実況検分で明らかになったのは「右折した時に、早く曲がり過ぎて内側に入り込んでいた」という事実でした。実はその前から、自分の運転が右折時に内側に入り込むくせを自覚していました。それまでに何度か対向車とぶつかりそうになった事があったからです。

ただ、実際にぶつかった事がなく、その為、特にそのくせに対する危機感を持っていなかったのです。後悔する事がいっぱいありました。なぜあの時、裏道を通ってしまったのか、こんな事になるなら、少々遅刻して怒られた方が良かったのに。なぜ、右折時に内側に回り込む癖を直さなかったのか、気づいていたのに、なぜ意識して右折しなかったのか。そうすれば自転車と衝突せずに済んだのに、と。

しかし、いくら後悔しても事故を起こしてしまった事実はくつがえせません。被害者の方は、頬骨を複雑骨折し、完治に半年もかかりました。その間、何度か謝罪に伺いましたが、いくら誠意を見せたところで、その方の症状が軽くなるわけでもなく、その家族の方が許してくれる訳でもなく、私の罪の意識が軽くなることなどありませんでした。

結果私は、40万円の罰金と、60日の免許停止という処分が下され、貯金を崩し罰金を払い、二日間の免許講習を受け30日間免許がないという償いを受けました。

ほんの少し、何か一つだけでも気をつけていれば、簡単に防げた事故であったと思います。私はそういう思いをして初めて、自分の運転に気をつける様になり、抜け道、といって住宅街、いわゆる生活道路は決して通らない様にし、また、右折時は意識して大回りをする様にしています。

しかし私の様に、事故を起こしてから気づく、というのは、被害者も加害者である自分も痛い目を見てからということになり、不幸が先立ってしまいます。

私は、右折時に対向車にぶつかりそうになった、というヒヤリハット経験が何度もあったにもかかわらず、「事故が起きなくて良かった」で終わらせてしまったが故に、実際に大きな事故を引き起こしてしまいました。

ヒヤリハット経験を周囲で共有し、それを基に普段の運転において、ちょっとした注意、意識改革をするだけで、どんな事故も未然に防げると思います。

正直、私にとって思い出したくない、忘れたくない経験です。

しかし、その経験を忘れずに、二度と同じ過ちを繰り返さない様に、また周りにこの経験を話す事で、反面教師になればとの思いで今後も風化させずに記憶に留めていく所存です。